

## 4 安全性の確保

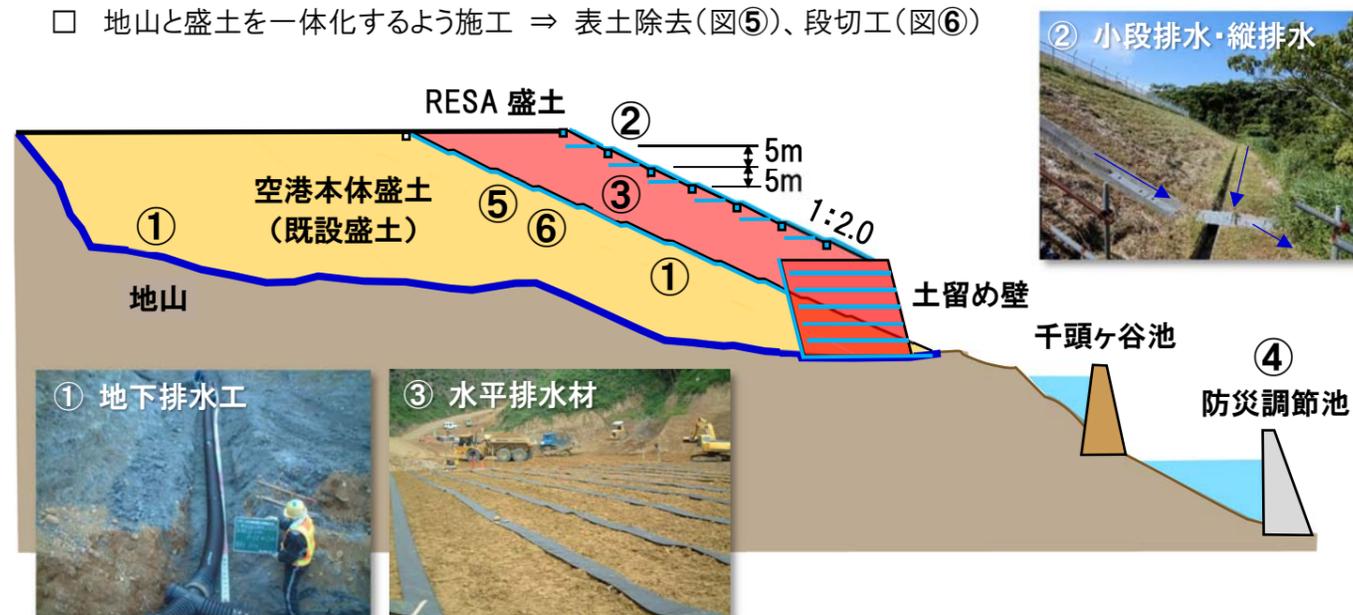
### <技術委員会>

空港建設にあたっては、地盤工学や空港関係の有識者からなる技術委員会を設置し、空港の調査・設計段階から完成後の盛土の状態監視まで専門的な知見により安全性を検証してきました。

RESA整備においても同様に、技術委員会を設置し、調査・設計段階から安全性を検証しながら事業を進めています。

### <盛土の安全対策>

- **【地震対策】** 想定される最大規模の地震に耐えられるように設計しています。
- **【排水対策】** 盛土が大雨等により流出することがないように排水対策を徹底します。
  - 盛土内への雨水や湧水の浸入を防止する施設 ⇒ 地下排水工(図①)、小段排水・縦排水(図②)
  - 盛土内に浸入した水を速やかに排水する施設 ⇒ 水平排水材(図③)
  - 流出した水を貯留し、下流河川へ安全に放流する施設 ⇒ 防災調節池(図④)
- **【品質と施工の管理】** 強い盛土となるよう品質管理や施工管理を徹底します。
  - 盛土材料の品質は、事前に材料試験や試験施工を行い、安全性を確認
  - 施工上、盛土の強度を高めるのに重要な「土の締固め度」を徹底管理
  - 地山と盛土を一体化するよう施工 ⇒ 表土除去(図⑤)、段切工(図⑥)



#### 静岡県スポーツ・文化観光部 空港振興局 空港管理課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL:054-221-3701 FAX:054-221-2159

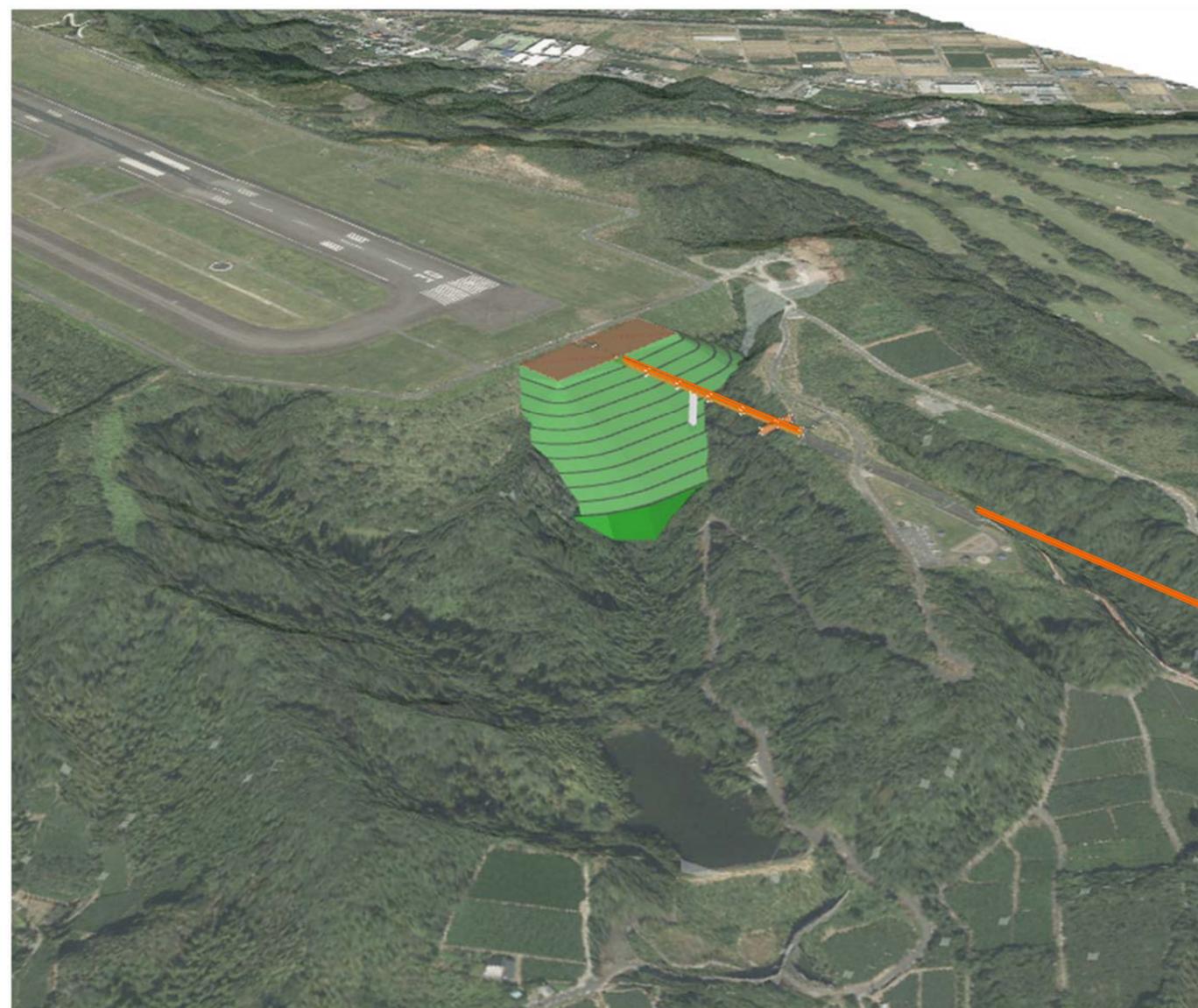
Eメール: airport-kanri@pref.shizuoka.lg.jp

#### 空港調整室(島田土木駐在)

〒427-0019 島田市道悦5丁目7-1 TEL:0547-37-7300 FAX:0547-37-7319

Eメール: airport-cyousei@pref.shizuoka.lg.jp

# 滑走路端安全区域 [RESA] 用地造成工事



静岡県スポーツ・文化観光部  
空港振興局

# 1 滑走路端安全区域(RESA※)とは

かつそうろたんあんぜんくいき リーサ

※ RESAは、Runway End Safety Areaの略称です。

滑走路端安全区域(RESA)とは、航空機が離着陸するときに滑走路を超えて走行して停止してしまう「オーバーラン」または航空機が着陸時に滑走路手前に着地してしまう「アンダーシュート」を起こした場合に航空機の損傷を軽減させるため、滑走路の両端に設けられる区域のことです。

国内の多くの空港は、RESAの長さを旧基準である長さ40mで整備してきましたが、平成22年の国際民間航空機関(ICA0)の勧告により、全ての空港において新しい国際基準である長さ90m以上に準拠することが求められました。

この勧告を受け、平成25年に国内基準が改正され、また、平成29年3月には国から「滑走路端安全区域(RESA)整備に関する指針」が公表され、令和8年度までに地方管理空港を含むすべての空港で新基準によるRESAを確保することとする方針が示されました。

富士山静岡空港においては、東側RESAが新基準を満たしていないため、新基準に適合したRESAを確保する整備を進めています。



オーバーラン事故 事例写真

## <RESAの位置>



## 滑走路端安全区域(RESA)

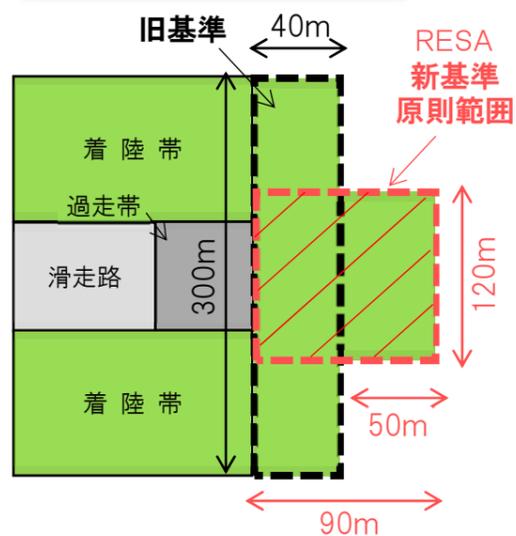
⇒ 滑走路(着陸帯)の両端に設けられる区域

○ 可能な限り確保すべき範囲(=原則範囲)の基準値

**旧基準** 長さ40m×幅300m

**新基準** 長さ90m×幅120m

## <国内基準のRESA範囲>



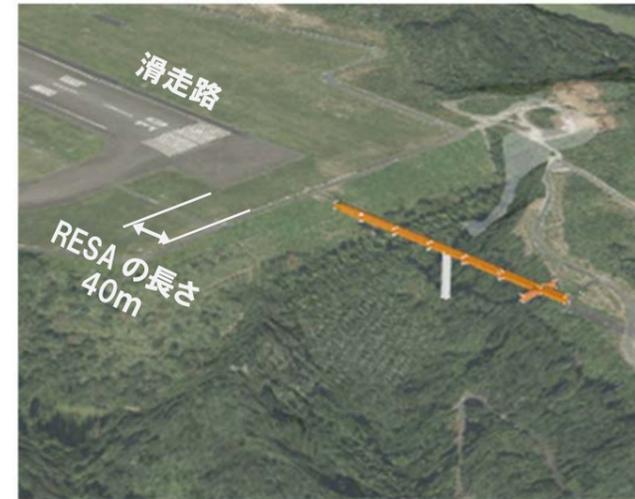
## <富士山静岡空港のRESAの位置と範囲>



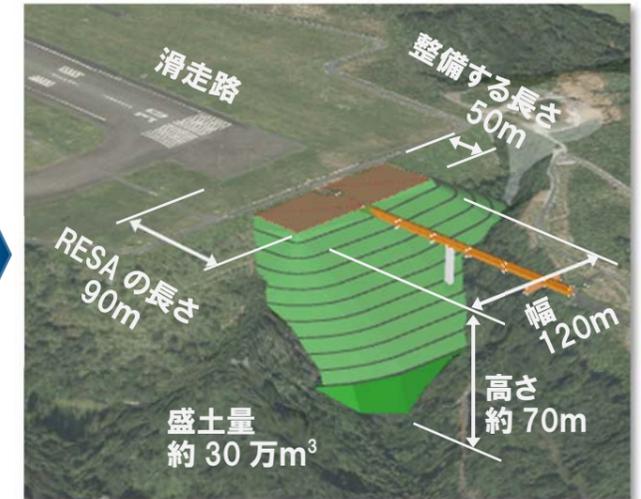
# 2 事業計画概要

新基準に適合したRESA整備は、空港建設時と同様に盛土により用地造成を行い、令和8年度の完成を目指します。盛土の設計・施工にあたっては、安全性の確保を最優先に考慮します。

## <現状>



## <整備後イメージ>



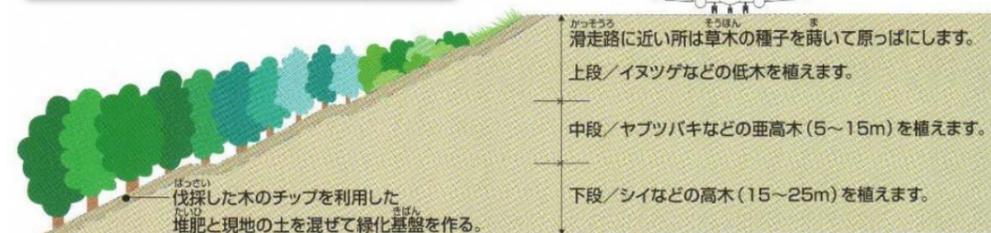
## <概略工程>

内容/年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
基本方針検討	■								
調査・設計		■	■	■	■				令和8年度完成予定
仮設・準備工事				■					
RESA本体工事					■	■	■	■	■

# 3 環境への配慮

富士山静岡空港は、自然環境と調和のとれた「緑の空港」として計画され、貴重植物の保全や郷土樹種による森林の復元を進めてきました。RESA整備においても空港建設時の基本方針を尊重し、自然環境の保全に努めます。また、工事中の粉じんや濁水、工事車両による騒音・振動にも配慮して工事を進めます。

## <郷土樹種による森林の復元>



## <貴重植物の保全>

